

高齢者における慢性疾患 で生じる「急変」の具体例

金ヶ崎町訪問看護ステーション

高橋 嬢子

在宅での急性増悪

- 最多のものは「感染症」
肺炎、尿路感染症、インフルエンザなど

訪問看護支援

- 感染症になるかもしれない病態の人(例:胃瘻、尿路カテーテル挿入など)への予防指導
- 起こってしまった時の対処方法の指導
- いつでも駆けつけますよ、という保障

緊急時対応の実態 (平成27年度)

緊急呼び出し対応	168件	
緊急訪問	124件	
内訳：	夜間休日	75件 (内夜間 44件)
	平日日中	49件
緊急電話内容	熱発	32
	いつもと様子が違う	20
	息を引きとしました	19
	尿カテーテルトラブル	15
	便に関する事	15
	落ち着きがない・興奮状態	13
	呼吸状態がおかしい	9
	介護相談に関する事	8
	嘔吐	8
	胃瘻トラブル	6
	くすりに関する事	6
	皮膚状態に関する事	5
	痰がゴロゴロしている	4
	食事、水分摂れない	3
	疼痛に関する事	2
	咳	1
	めまい	1
	食べ物詰まった	1

急変とは

- ◆予測されていない変化が突然起こる場合をいう
- ◆多くは、心肺停止、意識障害、胸痛、腹痛、吐血、下血など

訪問看護の利用者
▶何らかの疾患をもっている
▶高齢者が多い



●急変の可能性を常に念頭におく
●なるべく変化が起こらないように予防する
●十分な観察で変化を早期に発見する

在宅からの緊急入院

(平成27年度 全利用者の11%)

《病状内訳》

誤嚥性肺炎

気道閉塞

脱水

脳梗塞

意識障害(肝性脳症)

急変に備えた体制(当ステーションの場合)

- ファーストコールは訪問看護へ
状況に応じて救急車の手配を指導
家族が行える応急処置の指導
- 訪問後、救急搬送を想定した取り組み
氏名、年齢、住所、電話番号などの準備
- 急変が予測される療養者、家族の意思確認
例:頻回に吸痰している人や嚥下機能低下している人の
食事時の気道閉塞(窒息)
- 救急収容医療機関への情報提供書の送信